

## 都市再生協議会【公共空間再編専門部会】 第2回会合 議事概要

### 1 会合概要

開催日時：令和7年12月19日（金）15：00～17：00

開催場所：今治市みなと交流センター「はーぱりー」1階 みなとホール

開催目的：中心市街地の公共空間デザインに関する検討

主なテーマ：広小路（今治港線）の交通量調査・検証について

広小路（今治港線）の計画案について

広小路（今治港線）での社会実験について

広小路（今治港線）以外のエリアについて

### 2 発言概要

#### （1）広小路（今治港線）の交通量調査・検証について

##### ①周辺への影響について

・道路空間再編・整備によって周辺交差点の交通状況も変化すると考えられるが、交通検証においては周辺交通の確認も必要ではないか。

→実際には将来的に交通量が減少する可能性も考えられるが、交通検証では現況交通量に基づき道路空間再編・整備の影響を確認している。周辺交通については、次年度に実施する社会実験の中で問題が生じた箇所を把握した上で、必要があれば別途交通量調査を行うなど、原因を把握して交通検証を進める。

##### ②評価・所感

・交通量調査結果とその検証について、データが示されることで、理解がしやすいと感じた。

・信号が不要と考えられる交差点についても、実際の利用実感として納得できる内容だった。

##### ③交通処理と歩行者空間について

・計画案における交通量検証について、車両混雑度「0.99」はどのような評価であり、対応としてどのようなことが必要となるか。

→車両混雑度 0.99 の評価は、現況の信号青時間を前提とした場合でもぎりぎり対応可能という評価。対策として、信号の青時間配分の見直しや、右折レーンの整備等が考えられる。

・広小路を歩きやすくする場合、周辺で一定の混雑度が増えることは避けられない可能性がある。その場合、信号での制御に加えて、港へ行きやすいと感じられるような雰囲気づくりも検討してほしい。

#### （2）広小路（今治港線）の計画案について

##### ①計画案の転回路・動線の考え方について

・商店街近くに暮らす住人として、日常的によく利用している南北道路に対し、計画案での転回路の位置が一致していない点が気になる。

→本計画では、広小路（今治港線）を歩行者が安全に歩きやすい空間とすることを目指している。本計画では、南北道路に対して転回路の位置をずらし車両の迂回を促すことで、車両の通行・速度を抑制し、中央広場で歩行者が安全に通行できるようにすることを目指している。転回路の位置や個数については、今後交通に対する影響を検証しながら検討を行う予定。

- ・利用者の使い勝手や交通への影響を検証する機会として、社会実験を活用していけるとよい。

#### ②法令的な位置づけ、維持管理について

- ・道路中央部を緑地として整備するにあたり、法令上の位置づけやランニングコストについても県・市で議論を進めてきたい。

→道路法等の関係法令の確認・整理については早急に進めていく予定。具体的な設えや管理方法については、社会実験を踏まえて方向性を整理し、必要な対策内容とランニングコストの算出を行うものと想定している。

- ・先進事例での整備に至る経緯がわかれば、予算の組み方やランニングコストの考え方も参考になるのではないかと感じた。

#### ③クスノキの保全について

- ・クスノキを残した計画は非常に良い。クスノキは市の木であり、市民にとってもメモリアルな木。
- ・植栽帯の整備において、クスノキの印象が薄れないようにしていただきたい。

#### ④中央広場の活用事例について

- ・事例の中では、スポーツコート、屋根やデッキ、イベントが可能なフリースペースなどが具体的にイメージできると感じた。
- ・区間ごとに先進事例の要素を組み合わせると多様な使い方ができるようになれば、にぎわいある空間になると感じた。
- ・岡崎市の中央緑道のように、転回路をオーバーレイするように立体的に広場でつなぐ可能性はあるか。

→中央緑道での立体的な広場整備については、地下駐車場入口による動線の分断を防ぐ目的もあった。広小路（今治港線）の場合、バリアフリーの観点からは可能な限り平面で連続して歩ける方が望ましいと考えられる。

#### ⑤歩道の活用について

- ・沿道分析にあるように、歩道側の商店と連携した取組みによって、にぎわいをつくる可能性もあるのではないか。

→沿道のにぎわい創出にとって、1階部分の活用を担うテナント・事業者の参画が重要。現時点で具体的な行動に踏み切るケースは多くないが、次年度の社会実験や計画内容の積極的な発信により動きが出てくる可能性もある。今後は土地利用の誘導や、出店希望者とオーナーとのマッチングについても整備と並行して進めていけるとよい。

### (3) 広小路（今治港線）での社会実験について

#### ①交通規制について

- ・交通規制は24時間を想定しているか。
- 規制の期間・時間については、警察協議や、交通誘導員配置等の費用面も踏まえて検討予定。
- ・道路管理者にて、車両最大寸法の規制を行う考えはあるか。
- 道路管理者、交通管理者と協議を踏まえて検討予定。

#### ②交通量調査について

- ・社会実験時に交通量調査を実施する予定はあるか。
- 社会実験の効果検証として可能であれば実施したいと考えている。

#### ③実施期間/時期について

- ・今治は秋にイベントが多いため、10月実施の場合には早めに他イベントとの調整が必要。
- ・マルシェの店舗の募集も考えると、早めにマルシェと連携を図る必要がある。
- ・大勢の人が集まるイベントと重なった場合、意図しない渋滞が発生するなど、データとして参考にならない可能性もある。他のイベントとは被らないようにして、マルシェのある日とない日で比較できるような日程を組めると良い。
- ・2週間実施する場合、そのうち土日に全てイベントがあると検証できないかと思う。

### (4) 広小路（今治港線）以外のエリアについて

#### ①広小路（停車場線）について

- ・駅前の停車場線について、今治港線の後に整備する予定であるか。
- ランドデザインに示すように、将来的には停車場線での道路空間再編も進めたいと考えている。

#### ②駅前広場

- ・令和6年の予讃線開通100周年の際、今治駅前のタクシー乗り場横、駐車場に隣接する比較的広いスペースを活用し、キッチンカーを配置したイベントを実施したところ、非常に好評だった。
- ・現在の観光案内所やサイクリングターミナルの使われ方について、i. i. imabari!推進課やサイクルシティ推進課との意見交換の中で、「このままではもったいないのではないか」という課題意識が出ている。
- ・2月14日から3月末までの期間に、当該スペースを活用した実証実験的な取組を行う方向性について、先日、鉄道事業者とも協議を行った。今後は、今治あきない商社と連携しながら、行政とも一緒に取組を進めていくことが考えられる。

#### ③ケヤキ並木について

- ・令和7年5月から8月にかけて、今治あきない商社が主体となりライトアッ

プの取組が実施されており、地域の方々から好評を得ている。その成果を踏まえ、令和8年5月からは、実施区間を倍程度に延伸する方向で検討が進められていると聞いており、民間主体による積極的な取組の好例だと感じている。特に今治あきない商社は、まちづくりの視点をもって活動されている団体であり、可能であれば、このような会議の場にも関わっていただき、議論の内容や方向性を共有しながら、今後の活動につなげていくことが望ましいのではないか。